

第38回 甲南英文学会定期総会・研究発表会のご案内

2022年6月11日

甲南英文学会会長 福島 彰利

事務局メール：akimoto@konan-u.ac.jp

ウェブ：<http://www.konan-u.ac.jp/~els>

本年度の総会、および研究発表会・講演会を以下の要領で開催いたします。新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せていることから、3年ぶりに対面での開催といたします。懐かしい面々との再会の機会にもなると思いますので、ぜひともご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

※感染状況に変化があった場合にはオンライン開催に変更する場合がございます。その場合はメーリングリストでZoom情報を共有いたします。

記

日時：2022年7月2日（土）13時00分より

場所：甲南大学1号館 132教室

プログラム

13:00 -13:50 **総会**

議題

- 1 2021年度決算報告
- 2 2022年度予算案
- 3 投稿規定の改定
- 4 その他

報告

- 1 編集委員会より
- 2 その他

14:00-16:00

研究発表

※今年度はすべてのプログラムを同一の教室で行います。

1 [英語学]

司会：Andrew Martin (甲南大学)

Acquisition of Obstruent Devoicing in Japanese Loanwords by Taiwanese Learners of Japanese: An Experimental Study of Phonological Judgements

橋内每歌 (台湾大学大学院入学予定)

2 [英米文学・文化]

司会：秋元孝文 (甲南大学)

Sympathetic Plagiarist: 『マイ・アントニーア』と共感的同一化の詩学

大谷祐二 (甲南大学)

16:20-17:30

講演会

司会：岩井学 (甲南大学)

ディストピアの新たな恐怖の型

—監視される恐怖から監視されない恐怖へ

高村峰生 (関西学院大学国際学部教授)

講演者略歴

1978年東京生まれ。東京大学文学部、同大学院人文社会系研究科を経て、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校で博士号を取得 (Ph.D in Comparative Literature, 2011年)。現在、関西学院大学国際学部教授。専門は20世紀の英米文学・文化、および比較文学／表象文化論。著書に『触れることのモダニティ——ロレンス、スティーグリッツ、ベンヤミン、メルロ＝ポンティ』(以文社、2017年)、『接続された身体のマランコリー——〈フェイク〉と〈喪失〉の21世紀英米文化』(青土社、2021年)。

【出欠について】

出欠の連絡はオンラインで行うことになっております。下記の URL をご利用くださいますようお願いいたします。欠席の場合は委任状の提出にご協力ください。

第 38 回 甲南英文学会 出欠連絡フォーム

<https://forms.gle/v2qstzBfoXVuCQT96>

回答期限:6/29(水)13:00 まで

※期間中は何度でも送信が可能ですので、内容を修正したい場合は再度送信ください。

※スマートフォンからも回答可能です。

〈入力の流れ〉

1. 最初に氏名の記入をお願いいたします。
2. ・「総会」欄で「参加」を選択した場合、「次へ」を押すと研究発表への出欠欄に移ります。
・「総会」欄で「欠席」を選択した場合、委任状フォームへ進みます。内容を確認後、チェックボックスにチェックを入れ署名をお願いいたします。
「次へ」を押すと研究発表への出欠欄に移ります。
3. 「送信」を押すと回答完了です。

【懇親会について】

新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、懇親会は開催いたしません。ご了承ください。

【役員会について】

本年度の役員会は、1号館3階131教室にて11:00より開催予定です。

役員の方は万障お繰り合わせのうえ、ご出席をよろしくお願いいたします。

【会費について】

参加の方には会場で年会費をお納めいただきます。不参加の方には後日振り込み用紙を郵送いたします。郵便局でお納めくださいますようお願いいたします。